

<2020年度 オリンピック・ムーブメント事業>

オリンピック教室

実施報告書

広島県 福山市立内海中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和2年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことのできるものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2020年4月～2021年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目
運動の時間(50分)



2コマ目
座学の時間(50分)



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」
等を伝える



個人またはグループワーク
で話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間・座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

実施内容

■期 日 : 2020年10月16日(金)

■ク ラ ス : 1年1組(6名)、2年1組(14名)、3年1組(10名)

■オリンピアン : 沖 美穂 先生(自転車/ロード)【出場オリンピック/シドニー大会、アテネ大会、北京大会】

■授業のながれ: 運動の時間(3時限)

1. 自己紹介~授業の目的確認



- ・自己紹介し、オリンピックバリュー(エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト)について説明。この3つの言葉を意識しながら、運動と座学の時間で一緒に学んでいきたいと話し、準備体操に移る。
- ・準備体操として、ストレッチ、新聞じゃんけんバランスを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・5班対抗でトライリレー(全2回)を実施。ボールを頭の上から後ろの生徒に渡しながり返し地点(コーン)まで進み、折り返し地点からはボールを後ろの生徒に転がしながらスタート地点まで戻る。続いて1人ずつボールをドリブルしながらコーンを回り、次の人にボールを渡す。
- ・各回終了後に作戦タイムを設け、より早くゴールできる方法を話し合う。

4. まとめ



- ・運動の時間を振り返り、オリンピックバリューを意識して取り組めたかと生徒に問いかけ、大人になっても大切なことなので、日々の生活の中でも意識してほしいと話す。次の座学の時間では、この運動の時間で学んだことを思い出しながグループワークに取り組み、オリンピックバリューについてより詳しく学んでいくと予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・スライドを見せながら自己紹介。オリンピックシンボルについて使用されている6色で世界のほぼ全ての国旗を描くことができること等を説明。
- ・自身の経験を通じて得たオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、ベストを尽くし頑張る、最後まで諦めない、目標に向かって全力を尽くす」「フレンドシップ＝友情、仲間、お互いを理解する、チームワーク、思いやり」「リスペクト＝敬意／尊重、フェアプレー精神、感謝する心」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：夢や目標を実現させるために何が必要かオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう
 発表：各班の代表者1名が前に出て発表。(抜粋、順不同)
 エクセレンス：「一生懸命練習する」「目標に向かって全力で努力する」「自分で決めたことをやり遂げる」等
 フレンドシップ：「笑顔で話す」「周りの人と協力する」「困っている人を助ける」等
 リスペクト：「感謝の気持ちを持つ」「礼儀を守る」「思いやりを持つ」等

4. まとめ



- ・現在、競輪選手のサポートに携わっており、東京2020大会の自転車競技日本代表選手に内定している選手もいる。職場では、「私達はがっかりするつもりがない。私達は優秀である。それからもちろん、勝利するつもりである」という言葉を掲げてきた。練習の中で信頼関係を築き、現在では世界トップクラスの実力を持つチームに成長した。これからテレビや新聞等に取り上げられる機会も多くなると思うので、ぜひ応援してほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真

1年、2年、3年



■ 記念品贈呈

1年、2年、3年



■ 修了証贈呈

